

塩見橋のプロジェクトから始まった日向木の芽会のまちづくり*

Citizen Participation Activities in Hyuga-City initiated by Shiomi-bridge project*

海野 洋光**

By Hiromitsu Umino**

1. はじめに

今思えば、日向木の芽会のまちづくりへの取り組みは、塩見橋の手摺が始まりでした。公共事業の橋の手摺を市民に取り付けさせると言う発想は、当時、日向土木事務所の中村安男氏と塩見橋のデザイナー南雲勝志氏の発想でした。「地元木材の手摺を子どもたちの取り付けてもらう」、「一度だけでなく、手摺のメンテナンスを毎年、塩見橋の関わる市民参加型のイベントにする」、「細い木製の手摺を外で使用する」等々。

何もかもが新しい発想でした。木に関わる団体である日向木の芽会の目標は「地元の木材を公共事業に使う、使ってもらう」ことです。このことは声高らかに主張していましたが、四十数年、当会の活動の中でも、公共施設である橋の工事中に、市民が取り付けに参加するという発想はありえませんでした。とにかく、地元の木材を使ってもらうことには、大いに賛成でした、日頃から、木工教室を通じて子どもたちと触れ合っている私たちにとっては、願ったり適ったりの事業でした。多くのメンバーは、「地元の木材を宮崎県日向土木事務所に公共事業で使ってもらえる」。はじめの頃はそのような軽い気持ちの方が大きかったと思います。

2. 塩見橋メンテナンスイベントからの広がり

手摺の径は？塗料の材料は？木材の樹種の選定は？イベントの日時は？どんな形で毎年行うか？決めなければならないこと、実行にすぐに移さなければならないことがたくさんありました。地元の小学

*キーワード：まちづくり、市民参加、林業振興

**非会員、日向木の芽会

(883-0021 宮崎県日向市財光寺1527、
TEL0982-54-3528)



写真－1 手すり取り付け作業

校に呼びかけ、地元の太鼓チームも呼んでイベントをさらに盛り上げました。集まっていたいた 100 名近いボランティアの人たちに説明の後、手摺を取り付けてもらいました。2000 年 11 月のドキドキしたイベントは無事終了しました。それから毎年メンテナンス・イベントとして塩見橋の手摺は、市民に参加していただいています。「この手摺は、わたしがつけたとよ」と当時参加していただいた近状の方から声を掛けてもらうのは、本当にありがたいことですし、市民に定着してきたのだなあ実感できてうれしいものです。

塩見橋が、2001 年のグッドデザイン賞を受賞したという知らせには、メンバー一同「やっぱり、かっこいい橋じゃから賞をとったちゃわ」と結構、冷静だったと記憶しています。

2002 年に完成した日向市駅前の 10 街区市道の事業（日向市市街地開発課）には、「ストリートファニチャー」の計画の段階から関わり、地元の木材で街灯、ボラード、ベンチをつくることができました。まさに「木を活かしたまちづくり」でした。しかし、南雲勝志氏のデザインが図面となってメンバーの前に出てくると、メンバーは「こんなのできねよ」と口を揃えていました。次に模型ができてくる。「本当に作る気じゃろか???」「だれがつく



写真－２ ボラードの製作



写真－３ 街灯とボラード

るとね??」図面を見ながら顔を見合わせる？実は、メンバーは、「ボラード」の意味さえ知らず、「ボラードって「車止め」らしい」と後で教えてもらったものです。確かに図面では分からなかった部分が、模型や完成予想写真をもろうと理解が早かったようです。南雲氏が言うには「地元でできる技術で良いですよ」とのことでした。しかし 3m 近くの材に 60mm くらいの穴を刳り貫くドリルが地元にはなかったので 2 つに割ってもらいました。南雲氏に「できません」と言ったのはこのときだけでした。

街灯の八角形錐は、意外と簡単に製作できました。円錐のボラードも何とか時間を掛けて作ればできることもわかりました。樹種の選定でも栗、桧、杉と実際に試作を作って決めました。完成形が出来上がる前の試作は何本作ったかわかりません。ベンチにしても小さな工夫を随所に取り入れました。南雲氏には、原木丸太から製材所、加工場まですべて見てもらいました。「ただ、地元の材を使うというだけでは、つまらない。自分たちで考えたものづくりが加わるとまちづくりの面白さが倍増する」快感をメンバーが知り始めた事業でもありました。

街灯の点灯式の時、「きれいだなあ」と感動するものを自分たちが作ったという自信がまちづくり



写真－４ 街灯の設置実験



写真－５ 市民参加のベンチ作成(1)



写真－６ 市民参加のベンチ作成(2)
の麻薬だと知ったのは随分後のことでした。

日向市のこの事業で、試作や実験したものを宮崎県日向土木事務所が、塩見橋の南側の橋詰め広場に取り入れました。この時は、パーゴラが「藤棚」と教えてもらいました。日向市駅舎の鉄道高架事業の起工式が行われた時も、私たちの会も積み木や木工教室などを開いてイベントの盛り上げに参加させていただきました。従来の木の子会の活動は、このようなことが主だった訳で、商店街の方々に「商店街がイベントをする時は、木工教室や積み木をお願いしますよ」と声を掛けてもらえ、本来の活動にもつながることを感じました。

以後、商店街の方の発案で日向市の駅舎に使用



写真－７ グッドデザイン賞の知事報告

される大断面集成材の端材（長さ 5m 程度）を使った街中に置くベンチを地元の子どもたちに作ってもらったり、杉丸太でお祭りのときに店先に氷柱の置台を依頼されたりしました。商店街の人たちとの地元の木材で良い関係も築くことができるようになりました。

2003 年には、全国街路事業コンクールで塩見橋事業が優秀賞をいただきました。市民参加型のメンテナンス・イベントを取り入れたことが受賞理由になったそうです。

この時のプレゼンテーションビデオを見ましたが、「こんな賞までいただいたらもう止められない」というのがメンバーの本音でした。この年、さらにグッドデザイン賞を新領域部門で受賞しました。南雲氏の粋な計らいで日向木の芽会という名前も応募者の中に入れてもらい、表彰状の中に名前が入っています。「いよいよ抜け出せなくなる」と感じたのは、メンバー全員の偽らざる気持ちでした。

その後も有名な建築雑誌に紹介されたり、地元のテレビ、新聞に出たりしたため、県内をはじめ、他県の同業者からこの活動についての問合せも増えてきました。この年のメンテナンスイベントでは、W 受賞記念と銘打って餅まきもしました。

3. 日向木の芽会のまちづくり

今までの木の芽会の活動は、木工教室やまな板販売などが主流で、まちづくりに積極的に参加しようという意識は少なかったといえます。

子どもたちを含めた地元の人たちとともに何かをしようとする動きが活発になったのは、街の人たちからの依頼が増えてきてからでした。塩見橋の手



写真－８ 塩見橋での餅まき



写真－９ イベントへの参加



写真－１０ 杉コレクション 2004

摺、駅周辺の 10 街区、塩見橋の南詰め広場と自治体の大きな事業に関わり始めて、市民を巻き込んだイベントに協力してきた自分たちが主体的に行動して街の活性化に役に立とうという意識が次第に生まれました。

私たちの県下の仲間たちの集まり第 43 回会員日向大会と日向土木事務所管内の建設業関係者の催し「土木の日」を同時に 10 街区パティオで開催しようとなりました。そのメインイベントが「杉コレクション 2004」でした。この日は、大変なにぎわいを見せ、商店街の人からも「来年もやってほしい」と何度も言われたほど大成功でした。

杉コレクション 2004 のはじめは、県内の人を対



写真－１１ 「内藤の森」 くい打ち式

象にした木工作品コンクール展をという軽いノリでした。日向土木事務所の井上康志氏や南雲氏たちとお酒を交わすうちに話が段々大きくなり、「全国レベルのコンテストにしよう」「審査委員長は建築家の内藤廣先生に・・・」と勝手に盛り上がりました。内藤廣先生も快く引き受けていただき、全国からすばらしい 40 点の作品が集まり、グランプリには兵庫県の狩野新氏の「ナミキの椅子」が選ばれました。

この作品は、新しい日向市駅舎完成時に設置されることになっています。日向大会懇親会で内藤先生に感謝を込めて山を贈ると発表しました。

2005 年 4 月、内藤先生には諸塚村の FSC 認証の杉山を贈りました。木の芽会のまちづくりは、人と人の信頼関係から生まれるとこのプロジェクトを「杉絆」と名づけました。

2004 年で富高小学校の課外授業にも協力をしました。「移動式夢空間」と名づけられた子どもたちのアイデアがいっぱい詰まった屋台を 3 台つくるお手伝いもさせていただきました。このプロジェクトは、小学 6 年生が自分たちの街を活性化するには、自分たちの街に賑わいを作りたいという発想から始まっています。材料は全て地元の杉で作りました。

５．まとめ

木の芽会がやってきた「まちづくり」とは何でしょうか？私たちは、こう考えます。「日向木の芽会がやるなら・・・」と言って惜しみなく協力してくださる方が必ずどこかにいたから、このようなまちづくり関わるイベントや催しができたのでしょう。

地元の木材を漫然と使うだけでは、決して生まれない発想や技術、アイデアを互いに学ぶことで信頼関係を築き上げる「ものづくり」のはじまりが日



写真－１２ 木の芽会と南雲勝志氏



写真－１３ 移動式夢空間

向木の芽会の原点だったと思います。

自分たちが目標とするまちづくり（木を活かした）に協力していただいた方の期待を裏切らないように常に一生懸命になって動くことが、成功につながり、次の活動の原動力になっています。本当のありがとうございます。そして、これからも頑張ります。